

ここまで変わった！住民と議会の関係

議会報告会ダイジェスト



初の議会報告会

＝多くの住民のご参加に感謝いたします。＝

去る3月26日から4月12日までの間、町議会として初めて議会報告会を開催させていただきました。行政区長をはじめ役員の方々、そして多くの住民の皆様にご参加をいただき、市政運営や議会活動に対するご意見をいただきました。今後、議会内部で十分議論し、議会活動に役立たせていただきます。

| 議会報告会出席者数 | | | | |
|-----------|------|-----|----|-------|
| 日付 | 行政区 | 男性 | 女性 | 参加者合計 |
| 3月26日 | 鹿野区 | 27 | 1 | 28 |
| 3月27日 | 勢生区 | 28 | 0 | 28 |
| 3月28日 | 横瀬区 | 36 | 1 | 37 |
| 3月29日 | 横本区 | 28 | 14 | 42 |
| 3月30日 | 花月区 | 27 | 2 | 29 |
| 4月2日 | 大和区 | 37 | 2 | 39 |
| 4月6日 | 菊水区 | 15 | 6 | 21 |
| 4月8日 | 青雲区 | 22 | 9 | 31 |
| 4月10日 | 文芸区 | 29 | 7 | 36 |
| 4月11日 | あどり区 | 13 | 11 | 24 |
| 4月12日 | 中央区 | 19 | 5 | 24 |
| 合 計 | | 281 | 58 | 339 |

〈議会だよりNo50 平成24年5月号誌面〉

しんとつかわ議会だよりは、平成12年5月に創刊し、おかげさまで第100号の発行となりました。これを記念し、今号では、議会だより第50号当時と現在を比較して、住民の皆さまと新十津川町議会の関係の変化に迫りたいと思います。

第50号 初めての議会報告会 計339人参加

発行当時の平成24年には、3月下旬から4月中旬にかけて、町議会として初めて「議会報告会」を開催し、多くの皆さまに参加いただきました。その数は、11行政区でなんと339人でした。

参加者からは、市政運営や議会活動に対して数多くのご意見をいただき、議会活動に反映させてきました。

当時の住民と議会は、「議会の活動報告に對し、住民が評価を行い、意見や要望をする」というような関係でした。いわば、「住民参加の関係」です。

その後は、「くるま座ミーティング」、「かたるベサロン」といった「広聴活動」にも力を入れてきました。

第100号 議会モニター制度で 「住民参画」の実現へ

現在は、住民参加からさらに一歩踏み出し、住民と議会がまちづくりに一緒に取り組む「住民参画の関係」を目指しています。

そのための手段として、「議会モニター制度」を活用した議会活動の改善を進めたいと考えています。

「議会モニター制度」は、議会の仕組みや議会活動そのものに対して住民から意見をいただくことで、住民と議会が一緒に議会の改善していく仕組みです。

令和5年11月26日には、ゆめりあ多目的ホールで、一般社団法人地方公共団体政策支援機構上席研究員の長内伸悟氏に講師を依頼し、「議会モニターワークショップ」を開催しました。20代から70代の計14人の住民（町内に勤務先がある方を含む）が参加され、たくさんのご意見をいただきました。



〈ワークショップ参加者の意見〉

- ・ 議会や議員に対して敷居が高く、話じづらさを感じることがある。雑談からでもいい。話しやすい関係をつくるため、スーツではなく、少々ラフな格好で町民が話しやすい工夫が必要。
- ・ 議会と同じ方向で協働できるようになればいいと思う。
- ・ もっとたくさん関わっていききたい。議員が楽しく働ける環境づくりをしてほしい。
- ・ 議会モニターが自由に発言できる雰囲気、環境が大事。問題を深掘りして分析、対策まで。
- ・ 若い人々が議員になりやすい環境を議会でつくってほしい。
- ・ 住民の意見が取り入れられたのかわからないし、その経緯なども説明してほしい。
- ・ 議会モニター制度を導入するのであれば、「気付きを得る機会」「仕組みを知る機会」「文書化して課題に向き合いやすくする」の3点が必要である。その上で、公平な環境を整えることは必須。
- ・ 話せる内容など検討し、各年代に合わせた意見の聴取方法を考えてはどうか。
- ・ 議会モニター同士のつながりを強くする取り組みをしたらよい。

〈ワークショップ後の議員の意見〉

- ・ 「議会が変われば、それをまねて役場が変わる。民間会社も町をまねる流れが生まれることで町が変わる」という先生のお話を伺い、時代と共に柔軟に変わっていかける議会であるべきだと学びました。
- ・ 常に町民の参画を意識して「議会活動計画」を実践することが大事。
- ・ 一人一人の感性や考えが尊重され、公平に議論がなされる環境ができて初めて、町民目線の議会や町民と共に歩む議会となるのではないか。
- ・ 今後もっとさまざまな方の意見を頂戴できる場をつくることを目標にしたい。
- ・ 住民の声を聞き取る努力が不足しているのではないかと気付かされた。
- ・ 議員を「先生」と呼ぶ時代は終わりであり、多くの住民と話し合うことで、議員が広い視野を持ち、公共の福祉の充実を目指す必要がある。
- ・ まずは地域の方に「議会の仕事や議員の役割」を知ってもらうことが大切だと思った。その上で、議員だけでは気付けないこともあるため、住民の皆さまの柔軟な考え方や意見を取り入れる仕組みが必要。

※講演の内容は、9ページをご覧ください。